

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 会報メール 第28号 [2011年1月号]

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第28号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

カレンダー、値下げ販売します!	[2]
シンシア医師の本 発売中!	[3]
メソト・マンズリー 今月のメソトの様子をお知らせします。	[4]
・ 謹賀新年	
国内から (木村 尚子)	
・ さいごのとき	[4]
編集後記	[6]
次号の予定	[7]



カレンダー、値下げ販売します！

賛助会員の皆様のご住所にお届けしたカレンダー、大好評発売中です！
まだ、残部がございます。

1冊からでも、大量注文も、**大歓迎**です。

1月はじまりカレンダーなのに1月になってしまったので・・・

1冊1000円を

3割引の700円に値下げします。
送料込みのお値段です。

<購入希望の方>

ご注文は、メールで承ります。

日本事務局宛てEメール：support@japanmaetao.org に
タイトルに「**カレンダー購入希望**」と書いてください。

本文に

- ①お名前
- ②郵便番号、ご住所
- ③ご連絡のつくメールアドレスなどの連絡先
- ④会員の有無
- ⑤希望冊数

をご記入の上、日本事務局までメールでお申し込みください。

<ご購入までの流れ>

①カレンダー購入希望のメールを日本事務局にお送りください。

↓

②日本事務局から、在庫を確認し、振込み先などを記載したメールが来ます。

(もしも、メール送信から、5日たっても連絡がなければ、お手数をおかけいたしますが、再度ご連絡をください)

↓



③日本事務局からのメールをご確認後、入金をお願いします。

(お振込みいただく口座は、ゆうちょ銀行です)



④入金を確認できしだい、発送をいたします。

注意：事務局住所はスタッフが常駐していないため

申し込みは、メール限定です。ご了承ください。

カレンダーの売り上げは、全額、

メータオ・クリニックの院内感染予防活動

および移民学校における保健活動等の事業に使わせていただきます。

数に限りがありますので万が一、売り切れの際は、ご容赦ください。

ご希望の方はお早めに。

シンシア医師の本 発売中！

『タイ・ビルマ 国境の難民診療所—
女医シンシア・マウンの物語』
(新泉社、1800円)



全国の書店、またはアマゾン等で発売中です！！

当会が編集協力した『タイ・ビルマ国境の難民診療所—女医シンシア・マウンの物語』
(新泉社、定価 1800円) が発売中です。

本書は、当会の支援先であるメータオ・クリニックとその創始者シンシア・マウン医師に
焦点をあてたものです。

当会は、さまざまな現地情報の提供、スタッフの梶藍子看護師による体験記の収録等で協
力しました。

本書の印税は、当会を通してクリニックへ全額寄付されます。



メタオ・マンスリー

今月のメタオ・クリニックの様子をお届けします。

謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。
いつもメタオ・クリニック支援の会へ応援いただき、ありがとうございます。

昨年はメタオ・クリニック内での結核患者用の隔離病棟の改築やビルマ／ミャンマー国内で開催された総選挙後の難民流出への緊急支援としてビルマ難民緊急基金への開設等、様々な課題に直面した年となりました。

皆様のお力添えにより、無事に隔離病棟も完成し、病棟の運営も軌道にのっていると現地より報告を受けております。

また、難民緊急基金では、総額 690,752 円を寄付させていただきました。
皆様の温かいご支援に当会一同より、心より感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思えます。
本当にご支援ありがとうございました。

メタオ・クリニックでも新年を迎え、クリニックそばにあるビルマ／ミャンマー移民自治学校 CDC 学校にて1月5日カレン族による「カレン・ニュー・イヤー」祭りが催されました。

Face Book 内の Mae Tao Clinic ウェブサイトではカレン民族によるダンスがご覧いただけます
Website:
<http://www.facebook.com/?tid=1407289721634&sk=messages#!/MaeTaoClinic>

タイ・ミャンマー国境では、依然、難民の流出が続いており、予断を許さない厳しい状況が続いていますが、2011年も当会では、皆様からの温かいご支援をメタオ・クリニックへ届けさせていただき予定です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、2011年、メタオ・クリニックまた皆様にとって実り多い年となりますようにお祈り申し上げます。

メタオ・クリニック支援の会一同

国内から

さいごのとき

【東京＝木村 尚子】



平素より JAM にご支援いただきありがとうございます。
 ありがとうございます。

私は現在、都内の病院で外科医として勤務していますが、日常診療を行う中で、4年程前にメーオクリニックで出会った患者さんを、思い出すことがあります。

今回は、そのエピソードについて、今思うところを含めてご紹介しようと思います。

年のころは70~80歳くらいでしょうか。皮膚に「できもの」ができた、家族におぶわられて彼女はクリニックにやってきました。

「できもの」は一見して悪いものだとわかるほど大きく花開き、大人の拳2個分程の大きさで、太ももにありました。息も苦しく、食事もここ一週間程食べられなかったとのこと。

クリニックでは病理検査(できものを一部とってきて顕微鏡でみる検査、診断をつけるために行う検査です)などはできないので、それ以上、診断のために行えることはありません。しかし、みるからに悪性(つまり皮膚にできているがん)です。

家族も含め本人にも悪性と思われる、根本的な治療としてはなにもできないけれど、ひとまず入院して点滴して休みましょう、でも残された時間は少しかもしれない、とスタッフが説明しました。

聴診器を胸にあてると、水が貯まり、肺にもほとんど空気ははいっていない様子です。血圧も酸素の量も低いし…

断定はできませんが、
 皮膚がん
 ↓
 肺転移
 ↓
 胸に水がたまる
 ↓
 息が苦しい、という状態だと思いました。

そのまま、家族と一緒に病院に残りました。(クリニックでは誰かが入院すると、家族が付き添い、身の回りのお世話をします)

そしてその日の午後、私やスタッフがいつものように、ガーゼをたたんだり、歌をうたいながら過ごしていた最中、静かに息をひき取りました。

皆さんは、どう感じますか？

私は不思議とその時、もっと早くクリニックに来ていたらなあ…とは思いませんでした。むしろ、幸せなおばあさんだなと感じました。

確かに最期は苦しかったでしょう。でも、そんな最期ぎりぎりのときまで、おばあさんは家族と一緒に我が家で家族と一緒に過ごせたなんて幸せだなあ、というのが正直な感想でした。

日本の現実はどうでしょうか。

私の仕事から、現在、日本の癌死因で第一位である肺癌の患者さんをみるのですが、肺癌はたちの悪い癌です。

発見された時点で手術のできない患者さんが7割程度、または手術をして癌は取りきれましたよ！と説明した数年後にまたひょっこり癌が顔をだしてきてしまうことがあります。

癌は再発や転移などをおこす病気ですので、よく耳にする「闘病」という言葉のとおり、闘って闘って、抗がん剤などの治療による副作用で日常生活もままならないまま最期まで力をふりしぼり、多くの場合には病院で最期をむかえています。

もちろん、治療の効果があって治ることもありますし、自分らしい生活を最期までおくることのできている方もいますので、全例にあてはまる訳ではないですが。

最近でこそ、家で自分らしい最期をむかえるための在宅医療という言葉が話題にのぼることもありますが、これまで病気がみつかれば治療を受けるのがあたりまえという状況がつけられてきました。これは日本に限らないことなのかもしれませんが、加入している保険の種類によって受けられる医療も病院も必然的に決まってしまう国もあるなか



で、特に誰でも皆、平等に医療を享受できるチャンスに恵まれた日本に典型的といえるのではないのでしょうか。

もちろん、これは、誰でも医療にアクセスできるという前提があっ てみえてきた贅 沢な問題なのでしょう。

メータオ・クリニックで出会ったおばあさんは、もしかしたら、ほかの国で治療ができる状態でみつ かれば、治癒していたかもしれ ません。

治療という選択肢がない環境というのは、決して恵まれた環境ではないと思 います。しかし、もしも日本で同じ状態で見 つけられ、治療の効果がなかったとしたら。

つらい治療が続き人生の最終章で家族と ともに過ごす時間が惨めなものになっ ていたかもしれない、と思ったのでした。

また、私自身、日常診療を行う上で「さいごのとき」が近づいた時に気にかけるのは患者さんの家族です。

家族は、「あのとき～しておけばよかった…そうしたらこのような結果にはならなかつ たかもしれない…」と、いつまでも自分を責めるものなのだと思います。私が出会った

おばあさんの家族にとっては、おばあさんを最後にクリニックに連れてきて診てもらった、何かしてあげた、という気持ちが少しでも救いになるのではないのでしょうか。

「さいごのとき」のあと、残された家族はそれでも前にすすまなければならないですから。

そのような場所があ の地にメータオ・クリニックとして存在していることで多くの 人々の心の支えになっているのだな、という ことも再認識しました。

少し重い話になってしまいましたが、これは私自身が最近感じたこと、考えたことで個人的な感想です。メータオ・クリニックに来院する患者さんたちに、国内で十分治療を受ける環境が整うことが一番の願いです。そこが満たされないために、国境をこえてはるばる医療を求めて人々がやってくるという現在の状況は決して望ましい状況ではないはず です。

ですが、現実には存在しているだけでも、あそこにいけば大丈夫、と心の支えになっている、そこにクリニックの存在意義があるのだなと改めて感じました。

編集後記

年末、和歌山の実家に帰省した私の目をくぎづけにした、とあるもの。

それは、

キノピー。



